

吉野彰さん ノーベル賞受賞によせて

宮澤憲一（10組）



数年前から有力候補になっていたが、吉野彰さんが今年見事にノーベル賞受賞の栄誉に輝いた。同年代の旭化成の元同僚に心からのお祝いを申し上げたい。

元同僚といっても当然職場は異なり（彼は研究所。私は事業部で営業や用途開発）、入社年次も多少差（私は昭和46年扱い。彼は院卒のため1~2年下の期）があるため、親交があったわけではない。同期であれば仲間と大騒ぎしていたことだろう。

ただし、彼がフェロー職になってから若干ではあるが業務上のお付き合いがある。

私が当時携わっていた用途開発（セラミックに代わる粉体製造特殊金属容器の開発）で、どのレアメタルを使用するかで行き詰まり、彼の知見を借りようとミーティングをさせてもらった。リチウムイオン電池の開発実験は発火・爆発の危険が伴うため、彼の実験の一部は私の所属する事業部の化薬工場で実施したこともあり、<化薬の頼みは断れない>とってくれ前向きに相談に乗ってもらい、的確なアドバイスをいただいた。

その後も、市場調査で国際二次電池展示会等に行くと、彼は基調講演者としてほぼ出席しており、ブースで時々顔を合わせた。

彼が受賞後の記者会見で<日本の技術は川上は強いが川下は弱く、川下を今のうちに強くしなければならぬ>と言っていたが正にその通りだと思う。

かくいう旭化成もご多分に漏れず、川上（原材料）は強いが川下は弱い会社である。彼の素晴らしい発明も電池の製造・販売までは至らず、残った会社としての成果は電池内部品のセパレーターにとどまった。旭化成は機能膜では定評のある技術を持っていたため、このセパレーターは現在世界ナンバーワンのシェアを握り、収益源のひとつとなっている。

話が横道にそれたが、いずれにしても彼の発明が世界の人々に与えた恩恵は極めて大きく称賛されるべきものであることに間違いない。

少しでも接触のあった知人がノーベル賞を受賞したことを誠に嬉しく思う。

受賞が決定した直後から、関係のない私宛にも友人・親戚・現役時代の取引先・地元のサークル仲間等から祝メールが相次ぎ、反響の大きさに驚いた。

メールをいただいた方々にお礼申し上げたい。

（2019年10月12日記）